REPORTS
English language & cultural seminar in Australia.
[University of Monash]

オーストラリア・モナシュ大学語学研修レポート

去る3月4日（月）～3月23日（土）までの約3週間にわたり、薬学部1名、歯学部2名、看護学科4名、言語聴覚療法学科4名、計11名の学生と教員2名がオーストラリア・モナシュ大学の語学研修に参加しました。

研修を体験した学生からは、「自身の英語が現地で通じるのかなど、不安が入り交じる中での出発でしたが、ホームステイをしていたおかげで、ホストファミリーが積極的に話しかけてきてくれるので、気づけば自然に会話を楽しむことができるようになっていました。本当の家族のように接してもらっていたので、帰国時は名残惜しくさびしい気持ちでいっぱいでした。」「大学では英語を勉強するだけではなく、オーストラリアの文化や歴史、医療制度についても知識を深めることができ、日本との違いに気づく良い機会となりました。休日にはメルボルンの市街でショッピングを楽しんだり、動物園に行くなど、どれも貴重な経験となりました。」「海外へ出たことがなかった私にとって、今回の語学研修は、私の大学生活の中でも大きな出来事となりました。滞在中は、言語をはじめ慣れないことも多く、挑戦の毎日でしたが、帰国後の自分は一回り成長した顔になったと両親にも言われました。参加できて本当に良かったです。」などの声が寄せられました。

心理科学部臨床心理学科 近藤清美教授がBowlby-Ainsworth Awordを受賞

心理科学部臨床心理学科の近藤清美教授がJ.BowlbyとM.Ainsworthが創設したアタッチメント（愛着）理論の研究に寄与したとしてNew York Attachment ConsortiumよりBowlby-Ainsworth Awordを受賞いたしました。

受賞した研究内容として、アタッチメント（愛着）理論の親子間の愛着において、子供が養育者を安全基地として利用し、安心感をいただく点をヒトのみならずサルにおいても研究を行い、親子間の愛着が霊長類においても見受けられる現象であることを証明し、生育環境や社会的関係が親子の愛着関係への影響を明らかにしたことです。

日本では初の受賞により欧州で創始された愛着の概念が文化を越えて普遍的であることを示し、この受賞で、アタッチメント（愛着）理論による世界と日本をつなぐ架け橋となるでしょう。

受賞のクリスタル製の盾

歯学部歯学科 永易教授　ユング-シュテリング病院（ドイツ）との医療/技術交流

永易裕樹歯学部教授は、平成25年2月18日から約2か月間、フランクフルトの約120km北に位置するジーゲンという町にあるDiakonie Klinikum Ev Jung-Stilling Krankenhausの顎顔面口腔外科及び形成外科に医療交流を目的として出張し、診療に参加しました。

非常に友好的な受入れ体制により、精力的に中央手術室での手術に参加し、今後は、「臨床における外来·入院患者管理」、「手術手技の違い」に関して議論し、日独双方における発展的な面の相互理解を深めるとともに、本学における診療への還元が期待されます。また、同医療機関における効率的な人的資源の配置、病床稼働法等の診療体制、医療サービス、及び教育面においての歯学部臨床教育、卒後臨床研修のカリキュラム、教育体制等について学び、運用可能なものを見いだしていくことにより、本学の歯学部臨床教育、特に、参加型臨床教育への積極的な運用が見込まれます。

なお、本学の口腔外科とJung-Stilling Krankenhaus 顎顔面口腔外科との間で、人事交流が図れるよう基盤形成を行う予定です。

外来にてHell教授（左）と永易教授（右）

中央手術室での術中写真。永易教授（左）と顎顔面口腔外科医（右）

【ユング-シュテリング病院】
ノルトラインヴェストファーレン州に3施設ある中核病院としての役割を果たす病床数800の大規模施設。顎顔面口腔外科は、Hell教授を中心とする3名の顎顔面口腔外科医（ダブルライセンス）と4名の歯科医師から構成されています。年間新患数は、約6000名、手術は中央手術室において1200例程度行われ、外来での全身麻酔下での手術件数も同等数あり、周囲100～200kmを診療圏とした地域医療を担っています。